

港湾・交通・観光対策特別委員会審査概要報告書

委員長 石須 大雄

- I 開催年月日 令和 6 年 10 月 15 日（火）
II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 10 時 52 分
III 出席委員等 [出席委員] ◎石須 大雄 ○高岡 宏和 山上 尊士
熊木 義城 田中 勝文 坂林 永喜
藪中 一夫 福井 直樹 酒井 善広
上田 武 大井 正樹 狩野 安郎
(◎…委員長 ○…副委員長)
[議長] 本田 利麻
[説明員] 別紙名簿のとおり
[委員外議員] なし
[事務局職員] 高嶋 史恵 島田 輝 野口 広大
[傍聴者] なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

[産業振興部]

- 。 令和 6 年度のクルーズ船の伏木港への寄港実績等について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【令和 6 年度のクルーズ船の伏木港への寄港実績等について】

- ウェステルダムやダイヤモンド・プリンセスなどが寄港した際の、勝興寺バス等の運行について確認したい。資料では高岡駅前中央駐車場シャトルバス発着場と勝興寺の往復と記載されているが、船着場から勝興寺や高岡駅前に繋がり、全体で往復されているというイメージで、その利用が 16 人や 21 人であったのか。それを踏まえ、どのくらいの方が高岡のまちなかや勝興寺を訪れたのか確認したい。

- △ シャトルバスについては、船会社、もしくは船会社から依頼を受けた旅行会社がチャーターしたバスをシャトルバスとして運行しており、そのバスが、埠頭に降りたお客様を乗せて、高岡中央駐車場と往復し、定時運行をしているという運行形態である。加えて、勝興寺バスについては、シャトルバスの運行を妨げるという懸念もあり、混乱をさせないように、少し非効率ではあるが、船会社の判断で高岡中央駐車場のシャトルバス発着場から勝興寺という運行をしている。高岡市内を訪れたお客様の数について、瑞龍寺経由のバスの利用者数を踏まえると、シャトルバスでは、4回の寄港で3,213人の方が、またツアーバスでは、630人の方が高岡のまちなかを訪れており、この数字を合わせると3,843人となる。
- 勝興寺バス等は、港から発出しているシャトルバスとは別のものであること、また、想像よりたくさんの方が高岡のまちなかに来訪されているということを理解した。寄港に伴い、高岡のまちなかにたくさんの方がお越しになったことについて、事業者の反応や要望などは聞いているか。
- △ 令和6年5月から、1年分のクルーズ船の寄港予定が県のホームページで発表された。これまでは慣例により、寄港の約1か月前からの公開であったため、商店街などへの情報提供に遅れが生じていた。お客様がせっかく高岡に来て、お店が開いてないという評価があったとも聞いており、何とか対応すべく、県が本市の要望に答えた形となった。お店への対応については、早朝に寄港し、早朝のうちに高岡を回り始めるということから、商店街や公共施設の管理団体にお願ひし、開店時間を早めたり、休館日を開館日にしていただくなどの対応をしてきた。
- 伏木ではトクトクが走っていたと思うが、今後の連携など展望についてあれば伺いたい。
- △ トクトクについては、伏木の地元企業が3台所有しており、6年5月のダイヤモンド・プリンセスの寄港の際に、何らかの形で運行できないかという相談をいただいた。同社が経営しているお店が伏木駅のすぐそばにあるので、伏木駅と勝興寺の門前へ行く手段として活用された。ただ、トクトクが交通の足代わりに使われたということで、タクシー業界に迷惑をかけている可能性も鑑み、今後、新しい活用方法がないか事業者と相談し、伏木港の新しい魅力として、クルーズ船のお客様にアピールできるメニューを考えていきたい。
- クルーズ船で高岡に来訪された観光客がまちなかを回遊していただくため、山町筋や古城公園などに促しているが、観光客の反応や手応えについて伺いたい。
- △ 今回のクルーズ船の寄港により、普段観光に携わっていない方にも、観光に対する意識、観光客へのおもてなしの機運の醸成が図られたと感じている。例えば、開店していない時間からお店を開いて、買い物をできるようにしたり、観光施設も開店時間前から開いていたことなど、観光客への適切なおもてなしができたものと思っている。観光客の反応については、観光案内所でも多くの方の問い合わせがあり、特に苦情等もなかったもので、次に繋がっていくものと考えている。
- これからも高岡らしさを前面に押し出して、おもてなしの精神で行っていただきたい。また、外国の方が、買い物や飲食より、体験を好む傾向があると伺った。時期的には難しいところもあるが、高岡は獅子舞が非常に盛んな地域であるので、獅

子舞の体験をできる仕掛けなど、検討いただきたい。(要望)

- クルーズ船の観光客の中で、高岡市内に一切立ち寄らず、市外へ出て行く方はどのくらいいたのか。また、そのような方に高岡の観光地を回ってもらうための仕掛けや取組など、今後の方向性は。
- △ 高岡市内に立ち寄っていない方の考え方を限定させていただくとすれば、ツアーバスに乗って、高岡に立ち寄りのない観光をされた方と捉えられる。集計はしていないため、1隻分ずつの断片的な数字となる。まず、6年4月7日のウエステルダムについては、金沢行きが237人、井波木彫の里と世界遺産五箇山行きが152人、白川郷自由散策行きが110人になる。6年5月29日のダイヤモンド・プリンセスについては、高岡、富山、立山黒部アルペンルート行きが179人、バス5台分である。また、白川郷自由散策行きが109人、バス3台分であり、世界遺産五箇山と井波木彫の里行きが184人、金沢行きが209人である。6年7月4日のダイヤモンド・プリンセスについては、立山黒部アルペンルート行きが、前日の雨の道路事情によりキャンセルになり、瑞龍寺行きに振り替えとなっており、白川郷自由散策行きが148人、世界遺産五箇山と井波木彫の里行きが151人、金沢行きが124人になる。1隻あたり約1,000人の方が移動され、船内で有料のツアーを購入するということもあり、船会社と旅行会社への影響を鑑みると、無理に高岡へ来訪を促すことは難しい状況にある。高岡に来訪される方々においても、シャトルバスやタクシーを使われる方もいらっしゃるが、タクシーに関しては数を掴みかねるところである。船会社と話し合いをして、高岡の魅力を発信しながら、ツアーの中に高岡の来訪につながるメニューを今後も増やしていけるよう、ポートセールスに努めていきたい。
- 様々な事情もある中で、成果が見えてくる部分もあると思うので、着実な取組を重ねていただきたい。(要望)
- 金沢港のクルーズ船の6年度の実績と、伏木港の6年度の実績の中で、伏木港の前後に、金沢港へ何隻寄港されたのか伺いたい。
- △ 6年度の金沢港の実績について、寄港数が47、発着数が13で、合わせて60となっている。5年度は、寄港数が47、発着数が15で、合わせて62となっている。伏木港の前後に金沢に寄港する船については、基本的には隣の港のため無いが、6年9月29日に寄港したウエステルダムについては、西から伏木港に入り、翌日金沢港に入ったという実績はある。
- 連続して隣の港を利用いただければ、そのツアーも県内、市内がメインになるものと想定されたため確認した。高岡中央駐車場シャトルバスの駐車場について、6年10月から公共バスの発着が北と南で分離されたこともあり、公共バスのターミナルに余裕が出てきたのではないかと感じている。観光バスも含めて、今後、より有効に活用できるようなことも検討していただきたい。(要望)

2 その他

- 。次回の本委員会の開催について

令和6年11月14日(木)午前10時に開催することが報告された。

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【伏木港の復旧状況について】

- 伏木港の復旧状況について伺いたい。また、ターミナルの設置に向けた取組状況について、県の港湾計画の中に組み込まれなければ進捗しないことは理解しているが、これまで働きかけをしてきたのか。また、今後働きかける予定はあるのか。
- △ ターミナルや施設整備について、クルーズ船の受け入れ状況からすると、コロナ禍で途切れたものが少しずつ復活してきており、令和6年度も6件という状況である。一方、金沢港では60件ということであり、やはりその利用状況に応じて、本当に必要な施設であるかどうか、ある程度の熟度がない限りは、施設を整備するという話も進めにくいと考える。コロナ禍が明け、クルーズ船需要が増えているということもあるので、今後、伏木港の利用状況が増え、ターミナル施設を整備しなければならないという状況になれば、その時点で検討したいと考えている。
- △ 伏木万葉埠頭の復旧状況について、クルーズ線が発着する3号岸壁は、背後の方が若干液状化しており、現在敷鉄板等で仮復旧している。3号岸壁は、被災という扱いにまでは至っていないという状況である。今回、被災を受けているのはその東側の1号岸壁、2号岸壁で、水深でマイナス7.5メートルと10メートルの岸壁があり、こちらが権限代行で国が復旧する施設になっている。現在の進捗の状況としては、契約手続中というところで、契約のタイミングについては、6年中には受注者が決定する見込みであるということ、先週の段階で直轄の方から確認した。また、万葉埠頭の1号岸壁、2号岸壁に繋がっていくための臨港道路については、直轄の方で1度契約が不調に終わっており、再度、公告を出していた。指名入札に移行し、現在、契約手続を進めているところであり、間もなく契約が締結される見込みであると同っており、10月契約であれば、11月から工事に入ることができる状況になる。
- 6年度中に工事が完了するものと受け取っていいのか。
- △ 6年度中に工事着手ということであり、完了ということであれば、財務省との協議の中では、災害の採択から2年以内に、その補修の完了を目指すものと伺っている。

【高岡駅のバスターミナルについて】

- 高岡駅のバスターミナルについて、令和6年10月のダイヤ改正によって路線バスの運行頻度が下がって余裕が生まれているのではないかと。シャトルバスの乗り入れなど、バス事業者と連携して、検討する予定はあるのか。
- △ 一般のバスダイヤの改正等に伴い、高岡駅の北側と南側を経由するルートが割愛されたが、シャトル便の設定等により、利用者にはそれほど影響がない状況である。高岡駅のバスターミナルのあり方については、利用者の安全確保のほか、一般車両の進入等もあることから、それらを考慮しながら、バス事業者と相談している。南側についても、これまでも様々な活用が図られてきた経緯もあり、現在、バス事業

者と意見交換をさせていただいているところである。

- △ 現在、路線バスを運行している加越能バスとは、何か有効活用が図れないかということで、例えば、大会があったときのシャトル運用など、高岡駅の接続利便性がより高まるような方法を協議しているところであり、6年度内には結論を出していきたいと考えている。

【市民協働型地域交通システムの現状について】

- 守山地区や木津地区、野村地区における地域交通は現在、どのような状況なのか。
- △ 市民協働型地域交通システムの令和6年度の運行実績で、8月までの状況として、小勢地区については、103日の運行で、514人の利用があった。守山地区については、53日、94便が運行され、167人の利用、中田地区については、71日、148便が運行され、150人の利用があった。野村地区については、7月31日からの運行で、14日、14便が運行され、26人の利用があった。木津地区については、6年7月1日より運行しており、2か月で、62日、316人の利用があったところである。
- 認知されるまで時間がかかると思うが、努力していただきたい。(要望)

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

港湾・交通・観光対策特別委員会 当局説明員（13名）

副市長	河村 幹治		
未来政策部長	鶴谷 俊幸	都市創造部長	赤阪 忠良
未来政策部政策監	日名田 尚明	都市創造部技術政策監	梶本 敏規
未来政策部次長 総合交通課長	表野 勝之	都市創造部次長	伴 孝宏
		都市創造部次長 都市計画課長	山森 久史
産業振興部長	式庄 寿人	土木維持課長	中澤 俊一
産業振興部次長	須田 稔彦		
産業振興部参事（兼務）	伴 孝宏		
観光交流課長	野村 岳人		
みなと振興課長	上田 浩樹		